

青梅市の認知症ケアパス

認知症の経過		気づき・発症期	
		健康	認知症の疑い・MCI
本人の様子		<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくりや介護予防に取り組む ●地域とのつながり(社会参加)を大事にする 	<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れが増えるが、自覚もある(人からも言われ始める) ●日常生活は自立しているが、計算間違いや漢字のミスなどが増える
家族の心得 対応のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ●本人と一緒に認知症予防に関する取り組みを実践 	<ul style="list-style-type: none"> ●年齢のせいにはせず、気になり始めたら、早めにかかりつけ医や各種窓口にご相談 
支援の体制	相談したい	地域包括支援センター (P15) / 悪質商法 (P19)	
	病院について	青梅市認知症初期集中支援チーム かかりつけ医 (もの忘れ相談医)	
	自宅での生活を続けたい	介護保険サービス〈みんなで支える老後の安心 (P17)〉	
	住まいや施設	認知症家族の会 (P19) 見守りサービスのある住宅	
	元気や体を維持したい 人と交流したい	地域での自主グループ (P19) 梅っこ体操 (P20) 高齢者クラブ (P20) 認知症チェックリスト・チェックシステム (裏表紙)	

認知症は「気づき・発症期」から「軽度」「中等度」「重度」へと段階的な経過をたどります。経過に応じて利用できる支援・サービスは異なりますので、かかりつけ医やケアマネジャー、地域包括支援センターなどに相談しながら、ふさわしい支援やサービス、また必要な医療などを受けるようにしましょう。

軽 度	中 等 度	重 度
<p>誰かの見守りがあれば日常生活は自立している</p>	<p>日常生活に手助けや介護が必要</p>	<p>常に介護が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 同じことを何度も聞くようになる ● ものや人の名前が出てこない ● 置き忘れやしまい忘れが増える ● 料理や買い物、金銭管理などが難しくなってくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ものを盗られた」などの発言をする ● 洋服の着替えがうまくできなくなる ● 家までの帰り道がわからなくなる ● 書字・読字が苦手になる ● もの忘れの自覚がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事、トイレ、お風呂、移動などの日常生活に関することが、誰かの助けがないと難しい ● 車いすやベッド上での生活が長くなる ● 言葉数は少なくなるが、感覚(目・耳・鼻などの機能)は残っている
<ul style="list-style-type: none"> ● 同じことを聞かれても、きちんと返答 ● 何でもかんでも取り上げず、本人ができないことだけをサポート ● 認知症についての勉強や介護保険サービスの利用を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな症状が現れてきて疲れる時期。人の助けを借りましょう ● 通所系サービスのみでは困難。訪問系や泊まり系サービスなどの検討を 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人が安心できる環境づくりを心がける ● 最期の迎え方について家族間で話し合いをしておく 
<p>(P16)</p>		
<p>〈西多摩医師会 もの忘れかな?認知症かな?〉 認知症疾患医療センター (P15)</p>		
<p>権利擁護 (P19)</p>		
<p>GPS・見守りシール(P18) 認知症サポーター(P18)</p>		
<p>(サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス) 〈高齢者の暮らしの手引き〉</p>		
<p>認知症対応型共同生活介護(グループホーム)〈介護保険サービス提供事業者一覧〉</p>		
<p>介護を受けられる施設(介護老人福祉施設)〈介護保険サービス提供事業者一覧〉</p>		
<p>一般介護予防事業 (P20)</p>		